保管用
よくお読みください
保証書別途

取扱説明書

電動車いす
KE15 シリーズ

● 目 次 ●

安全に関するご注意	2
1.製品の特徴	8
2.同梱部品の確認	8
3.各部名称	9
4.組立てかた	10
5.運転前の点検	12
6.運転のしかた	14
7.各部の操作方法	16
8.バッテリーの充電のしかた	19
9.バッテリー交換のしかた	22
10.分解のしかた	23
11.保管のしかた	23
12.安全で快適な走行をするために	24
13.お出かけの前の確認事項	26
14.故障かなと思ったら･･･	27
15.仕様	28
16.定期点検と記録	29
17.車体番号	31
18.保証	32

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます（http://www.kawamura-cycle.co.jp/product/manual.htm）。

※ご使用になる前に必ずお読みください。また、ご利用いただく際には必ず携帯していただくか、必要なときにいつでもご覧になれるところへ大切に保管してください。

6カ月に一度の点検を実施しております。
ご購入後１ケ月以内に返信用はがきにて登録していただきますようお願いいたします。

KAWAMURA 株式会社カワムラサイクル

安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

［表示マークの説明］

※正しい取り扱いに関する必要事項を標示(シンボルマーク)で表しています。

⚠ 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
⚠ 注 意	取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁 止	してはいけないことを示しています。
必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

⚠ **警 告**　取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

禁止

●勝手に改造・分解しないでください。

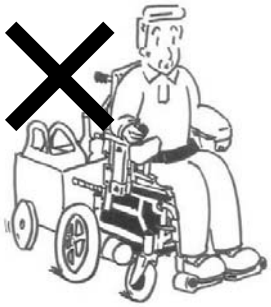
強度や耐久性が劣化して危険です。また、事故になる恐れがあります。

●電動車いすを火気に近付けないでください。

ボディーが変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、大変危険です。

●この商品は電動車いすです。電動車いす以外の目的で使用しないでください。

車や荷物をけん引することは禁止されています。



●酒気帯び運転は絶対にお止めください。

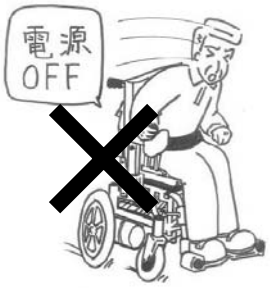
操作を誤る危険性があります。
また、気分が優れないときも運転しないでください。

⚠ 警 告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

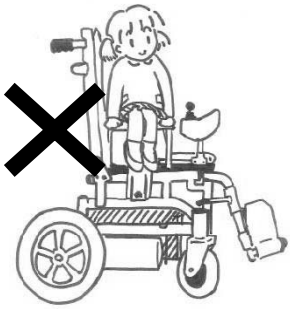
禁止

●走行中に電源のスイッチを切らないでください。
急停止して危険です。



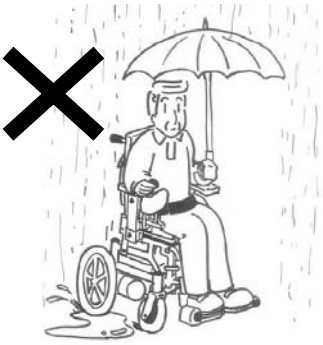
●シート部以外に腰掛けないでください。

●小さな子供でも同乗させないでください。
また、子供には絶対に運転させてはいけません。



●雨の日の運転･走行はしないでください。
雨水が操作パネル内に入ると操縦不能になる事があり、危険です。

●水洗いしないでください。
雨水が操作パネル内に入ると操縦不能になる事があり、危険です。



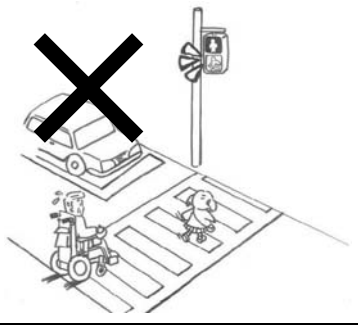
●後進の時は、周囲の安全をよく確認してゆっくりと運転してください。

●夜間は走行しないでください。

●道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。
カワムラサイクルの電動車いすは道路交通法の「身体障害者用車いす」に該当し、走行中は歩行者として取扱われます。従って「運転免許証」は必要ありません。

必ず守る

●大きな交差点では信号を一回待って横断してください。
途中で信号が変わるおそれがあり危険です。



⚠ 警 告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

●乗越えできる最大段差は6cmまでです。
大きな段差・溝の乗越えは避けて走行してください。段差に対して直角方向に乗越え、上り坂は特に避けてください。

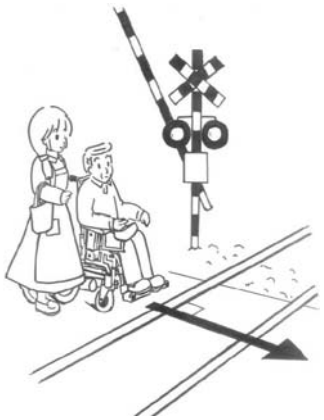
●乗越えできる溝の最大幅は 10cm までです。
溝に対して直角方向に乗越え、上り坂は特に避けてください。

●踏み切り、川の端、手すりのない橋等は大変危険ですので、出来るだけ避けて運転してください。

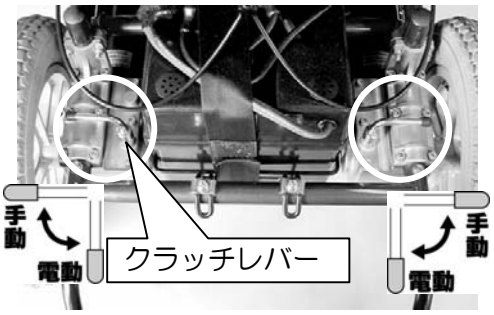
●交通量の激しい道路や踏み切り等は介助者と一緒に走行してください。

●踏み切りや溝を横断する場合は、必ず一旦停止し、安全を確かめてから横断してください。
また、進入するさいは、線路（溝）に車輪がはまらないよう線路（溝）に対して直角に横断してください。

●踏み切りに進入する際、溝を乗り越える際は、線路（溝）に車輪がはまらないよう線路（溝）に対して直角に横断してください



● 万一、踏み切りや歩道内で立往生した場合は、左側後輪部付近のクラッチレバーを『手動』状態にし、手で押して脱出してください。



●電車や自動車が近づくなど危険な場所は、身の安全を優先し、安全な場所へ直ちに避難してください。

●階段やエスカレーターでの使用はしないでください。

●万一電動車いすがこの電磁波の影響を受けて停止したと思われる場合は、慌てずに一旦電源を切り、周りに携帯電話等を使用している人がいない（1.5m 以上離れている）ことを確認し、再度電源スイッチを入れ直し、３秒数えてからゆっくりとアクセルバーを押して発進してください。
携帯電話や PHS、トランシーバ等の通信機器から出る電磁波が、まれに周りの電気機器類に悪影響を及ぼす場合があることが知られています。

⚠ 注 意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

●下記のようなところに電動車いすを放置しないでください。
- ・車道に近いところ
- ・路面に段差や凸凹のあるところ
- ・人通りのあるところ
- ・湿気の多いところ
- ・雨風の当たるところ
- ・火気のあるところ
- ・傾斜地

⚠ 注 意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

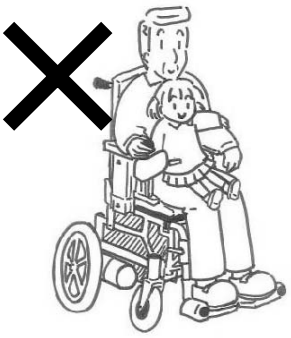
●次のような場所や状況では、走行しないでください。

転倒や故障の原因となります。また、車輪がめり込んで動けなくなる事があります。

- 雪道
- ぬかるんだ道
- 砂利道
- 凸凹の激しい道
- 凍結した道
- 水たまり
- 夜間
- 降雨
- 降雪
- 濃霧
- 強風時など

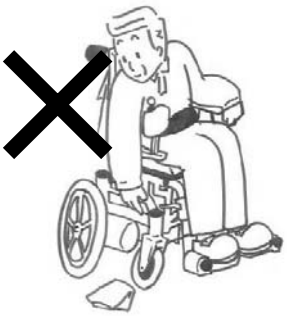
●複数人数で乗らないでください。

この電動車いすは１人乗りです。二人乗りなどは大変危険です。



●走行中に身を乗り出したり、足を出したりしないでください。

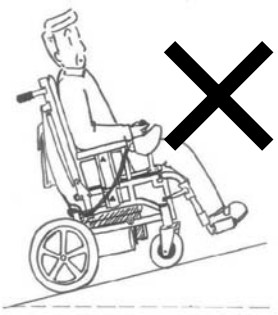
危険ですのでお止めください。



●急な坂道の走行はしないでください。

転倒の恐れがありますのでさけてください。

●坂道は斜め走行や横切る事をせず、まっすぐ前進で上り下りしてください。



●蛇行運転、急旋回、急発進、急制動しないでください。

必ず守る

●アクセルレバーは出来るだけゆっくり操作してください。

急な操作を行なうと、急発進・急停止になり大変危険です。また急発進を繰り返し行なうと、モーターに過負担がかかり故障の原因につながります。

●使用されない時、また離れる時は、いたずら防止のためキーを抜いておくことをお勧め致します。

⚠ 注 意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

必ず守る

●急な坂道を連続して走行すると、急にブレーキが効いて動かなくなる時がありますが、これは回路ブレーカーが働いた為ですので、ブレーカーを押し込むと、再度運転することが出来ます。

ブレーカーが働く時は、能力を超えたことになりますので、進路を変えてください。ブレーカーはバッテリー交換用足元カバーを開けてバッテリーの間にあります。

●突起物、障害物は避けて走行してください。

●突起物、障害物を左右の車輪の間にくぐらせるような走行は避けて下さい。

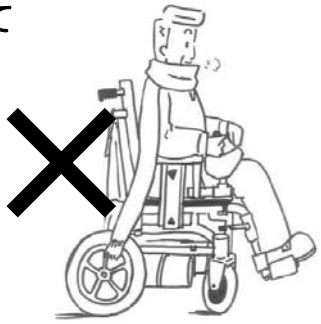
バッテリーやモーターを破損する恐れがあります。

●深く座って運転してください。

前の方に座って運転すると、バランスを崩し転倒する恐れがあります。

●回転している車輪に指を差し込まないように注意してください。

また、衣服等が車輪にからまないようご注意ください。



●ギア・モーター部より異常な音が出た場合はご使用を避け、お買い上げの販売店にご相談ください。

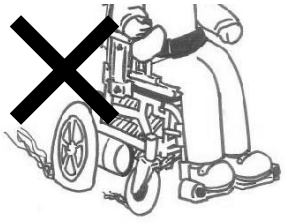
●使用者の最大体重は 100kg(積載物を含む)です。

重量をオーバーしないように使用してください。

●走行中は揺れますので必ず安全ベルトを装着してください。

●前後輪の空気圧を適正に保ってください。

空気圧が低すぎると走行が不安定になります。適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。



●コントローラーを落下させたり、衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

⚠ 注 意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

必ず守る

●座面を上げた状態、チルト又はリクライニングした状態で走行しないでください。
転倒する恐れがあります。

●昇降、チルト機構部、及びリクライニング機構部に手や足を入れないでください。
けがをする恐れがあります。

●昇降、チルト及び、リクライニングを操作するときは足をフットプレートから下ろさないでください。
けがをする恐れがあります。

●リクライニングしたまま昇降、チルトさせたり座面を上げたままリクライニングしないでください。
昇降、チルトと、リクライニングを併用すると、バランスを崩し大変危険です。

●リクライニングの操作をするときは走行用コントローラーの電源を切ってから行ってください。
コードが絡まったり、手などが当たり走り出す恐れがあります。

●電動リクライニング用コントローラーがフックにかかっていることを確認してから走行してください。
外れたまま走行しますと破損、誤作動の原因になります。

●電動リクライニング用コントローラーのコードを引っ張りすぎないでください。
コードが伸びて車輪等に絡まる恐れがあります。

周囲の方への注意事項

●ご使用者が電動車いすを操作するにあたり、問題がないことを確認してください。

●電動車いすに異常がないことをご確認ください。
万が一、異常がある場合は直ちに使用を中止し、販売店にご連絡ください。

なお、仕様変更などにより、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

基準適合 (財)日本交通管理技術協会

《 型 式 認 定 》

国家公安委員会から型式認定をうけております。

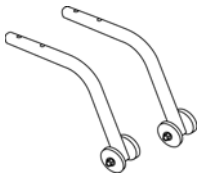
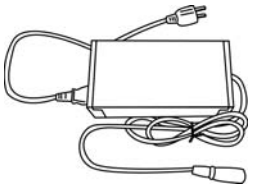
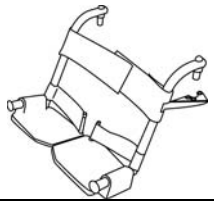
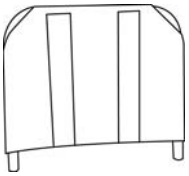
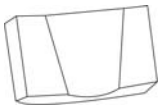
「ＴＳマーク」は、道路交通法令などに定められている基準を満たし、国家公安委員会の型式認定を受けた場合に貼ることができる標章です。

1．製品の特徴

・この商品は、電動車いすです。
・一人乗り用電動車いすです。
・移動と、これに搭乗しての休息を目的としています。

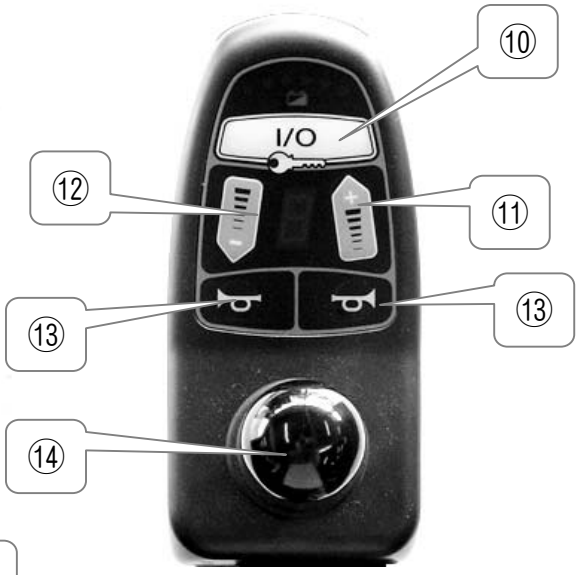
2．同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

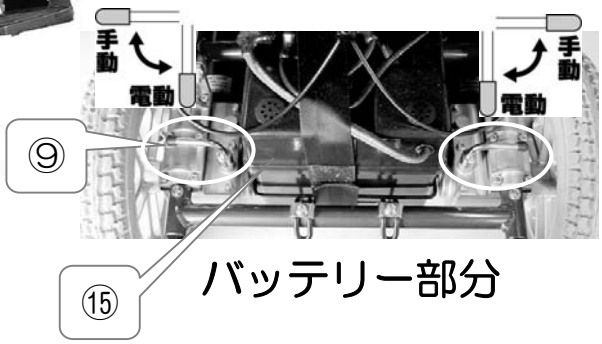
・マグネットキー　１個	・操作ボックス　１個
・転倒防止車輪　１ペア 	・肘掛け（左右）　１ペア
・充電器　１個 	・脚部（左右）　１ペア 
・背延長・枕　各１個  	・工具、説明書　各１個
・座クッション　１個（KE15-PF は２分割） ・背クッション　１個	・前バッグ（PF を除く）　１個 ・背バッグ　１個

3. 各部名称

全体図



操作ボックス上面図



バッテリー部分

①ハンドグリップ（押手）	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
②操作ボックス	車いすを動かすための部品です。
③アームサポート（肘かけ）	移乗しやすくなるよう脱着できます。（高さ調節可）
④フットサポート	脱着できるスイングアウト脚部です。
⑤ステップ板	足をのせる板です。
⑥かかと受け	足が滑り落ちないようになっています。
⑦前車輪（キャスタ）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑧後車輪	駆動輪です。（左右別で動くので、小回りができます。）
⑨クラッチレバー	手動、電動の切替レバーです。
⑩電源スイッチ	ご使用の際に電源を入れてください。
⑪速度設定ボタン（＋）	速度を上げたいときに押してください。
⑫速度設定ボタン（－）	速度を下げたいときに押してください。
⑬クラクションボタン	ホーンを鳴らす際に押してください。
⑭操作レバー	前後左右に押すと進みます。
⑮バッテリー	１台に２個あります。（走行、チルト、昇降、リクライニング兼用です。）
⑯リクライニングレバー	背もたれ角度を調整できます。

※KE15-TI、KE15-UD、KE15-PF の使い方は P.16～ をご覧ください。

４．組立てかた

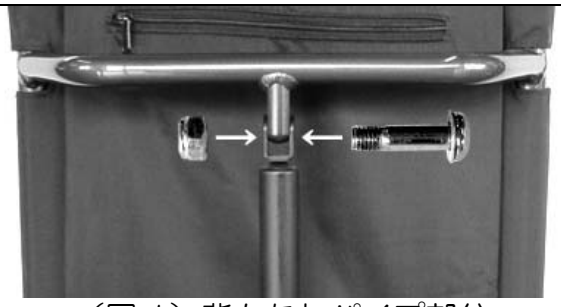
（１）台車に背もたれパイプを固定します。

①前に倒してある背もたれパイプを起こします。

②背もたれパイプとガススプリングを附属のネジで固定します。（図 1）

工具：六角レンチ６mm・スパナ１３mm

③背バッグを背もたれ上部と台車フレーム下部にマジックテープで取り付けてください。



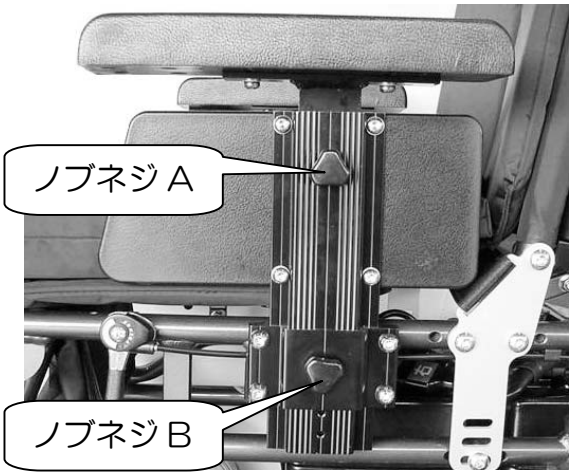
（図 1）背もたれパイプ部分

（２）左右の肘掛けを固定します。

①肘掛けを差し込みます。

②肘掛けの高さを合わせて、ノブネジ A、B（図２）を締めて固定してください。

肘掛けの高さはノブネジＡで７段階、
ノブネジＢで４段階調節できます。



（図２）肘掛け左側面部分

（３）脚部スイングアウトステップをセットします。

①ステップパイプをフレームに対して直角（左右に開いた状態）に差し込みます（図３-①）。

②ステップをカチッとはまるまで回転させて固定します。（図 3-②）

③左右のステップパイプ先端のボルトをゆるめ、ステップの高さを揃えてからボルトをしっかり締めてください。（図４）

工具：スパナ１３mm

④左右の足ベルトをマジックテープでとめます。（図４）

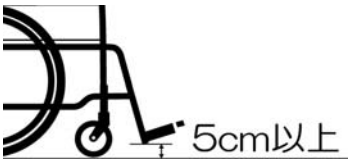
（図３）ステップ取り付け部分

（図４）ステップ部分

⚠警 告

●ステップポストの高さは地面より 5 センチ以上でご使用ください。

低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板(フットサポート)があたり、転倒する恐れがあります。



（4）座クッションを所定の位置に置いてください。

・座板は、前後にスライドできるようになっています。
走行するときは後方にセットしてご使用ください。
（座面下のバッテリーを取り出したりする場合は、
前方に引き出して跳ね上げます。）

※KE15-PF は座面固定式です。

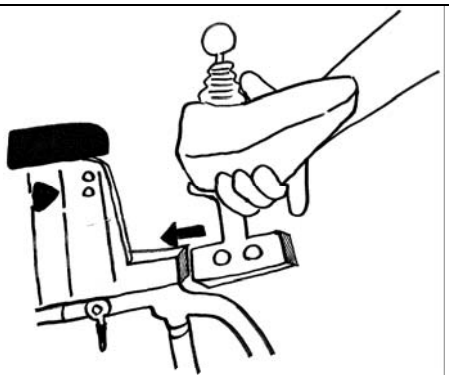
（5）背クッションを置いてください。

・ポケットが後ろになります。

（6）操作ボックスを肘パイプに取り付けてください。

・上下に３段階、前後に６段階の調節が可能です。

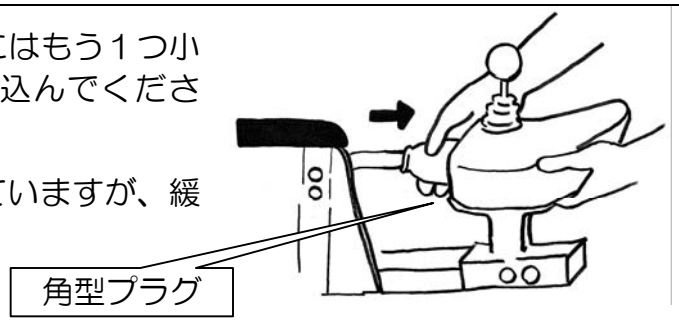
・取り付けネジはしっかりと締め付けてください。
工具：六角レンチ４mm



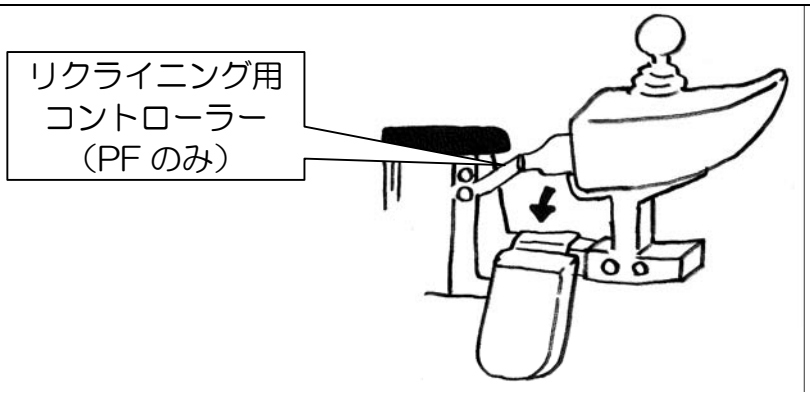
（7）角型プラグを操作ボックスに差し込んでください。

・KE15-TI、KE15-UD、KE15-PF にはもう１つ小さいプラグを角型プラグの横に差し込んでください。

・その他の配線は工場出荷時に完了していますが、緩みがないか、ご確認ください。



（8）リクライニング用コントローラーをアームサポート横のフックに引っ掛けてください。（KE15-PF のみ）



（9）転倒防止車輪を後輪横のパイプに差し込み、付属のネジで取付けてください。

・取り付けネジはしっかりと締め付けてください。

工具：六角レンチ５mm
　　スパナ 10mm

＜KE15-TI,KE15-UD,KE15-PF について＞

○昇降（KE15-UD･KE15-PF）、チルト（KE15-TI）及び電動リクライニング（KE15-PF）は電動でのみ動かすことができます。手動では動きません。

○昇降（KE15-UD･KE15-PF）、チルト（KE15-TI）及び電動リクライニング（KE15-PF）の電源は、走行用バッテリーと兼用ですので通常の充電とは別に充電する必要はありません。

○昇降（KE15-UD･KE15-PF）、チルト（KE15-TI）及び電動リクライニング（KE15-PF）のモーターは連続使用をしないでください。故障の原因になります。

5. 運転前の点検

走行する前には必ず次の各部を点検し、異常がないことを確認してください。異常があった場合にはご使用をお止めいただき、お買い上げの販売店にご相談ください。

＜車体まわり＞

タイヤ	◎亀裂や損傷はありませんか？
	◎タイヤの溝の深さ、異常磨耗はありませんか？
	◎釘、石、その他の異物が刺さったり、噛みこんだりしていませんか？
	◎空気は入っていますか？(エアータイヤのみ)
クラッチレバー	◎クラッチレバーは正常に作動しますか？
ねじ、ノブ類	◎ねじ、ノブ類の緩みはありませんか？

＜座席に座って＞

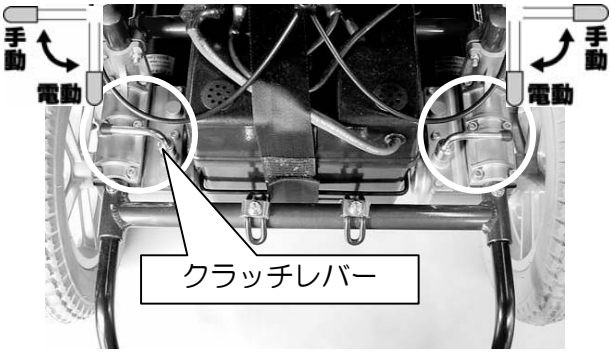
操作ボックス	◎ガタはありませんか？
バッテリーモニター	◎全部のランプがついていますか？
クラクション(警笛)	◎クラクションは鳴りますか？

＜走行して＞

操作レバー	◎押す、離すの操作で走行、停止しますか？
モーター	◎モーターに異常音はないですか？
	◎電磁ブレーキは正常に作動しますか？

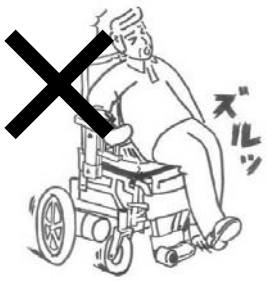
6. 運転のしかた

⑴ クラッチレバーが入（レバーが後向き）になって、車輪が動かないことを確認してください。



⑵ 平らな場所で乗車してください。

⑶ 座席に深く腰掛けて座ってください。前寄りに座るとバランスが悪くなり、転倒や事故につながる恐れがあります。



⑷ 操作ボックスの電源スイッチ（|/○ボタン）を押します。バッテリーメーターとスピード設定表示が点灯します。

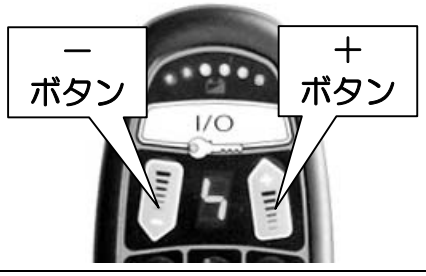
⑸ 操作レバーをゆっくり倒してください。レバーを倒した方向に車いすは動き出します。
レバーの倒し加減で速度は調整できます。

⑹ レバーを中央に戻すか、手を離せばブレーキがかかり車いすは静かに止まります。

⑺ **車いすに乗り降りする時、あるいは一時駐車する時は、電源スイッチをもう一度押して電源を切ってください。誤ってレバーに触れると車いすが動き大変危険です。**

⑻ 速度は５段階調整できます。（“5”“4”“3”“2”“1”と数字が小さくなると最高速度が遅くなります。）
速度設定数字を５にすると、Ⅰ型は　4.5km/h，　Ⅱ型は　6km/h の設定です。

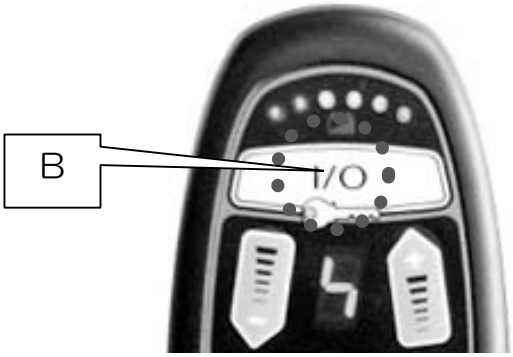
設定数字は、＋ボタンを押すと増加、
－ボタンを押すと減少します。



マグネットキーの使い方

通常電源スイッチを押すと、電源の入・切ができますが、マグネットキーを使うとカギをかけることができます。

（図5-1）マグネットキー



（図5-2）操作ボックス先端部

＜電源を切るとき＞

電源が入っているときにマグネットキーの Ａ 部分を操作ボックス先端部の Ｂ 部分に近づけると『ピッ』という音と共にパネルの表示が消えます。（図5-1）（図5-2）このマグネットキーを使用して電源を切った場合、次にご使用になる際はこのマグネットキーでのみ電源を入れられます。

（操作ボックス上面の｜/○ボタンを押しても電源は入りません。）

通常電源スイッチを押すと、電源の入・切ができますが、マグネットキーを使うとカギをかけることができます。

＜電源を入れるとき＞

電源スイッチを一回押して操作ボックス先端部のカギマークの点滅を確認してください。点滅しているときに、マグネットキーの Ａ 部分を Ｂ 部分に近づけると表示が点灯し電源が入ります。

手押しの方法

・クラッチレバーは電源スイッチを切ってから操作してください。

誤って操作レバーを動かすと危険です。

・モーター（後ろ車輪の横）についているクラッチレバーを９０度（外向きに）動かすとクラッチが切れて手押しができます。

・運転を再開するときはクラッチレバーを後ろ向きにしてください。

この（外向き）状態で手押しができます

（図６）後ろから見た図

⚠注 意

万一の場合のために、手押しの方法を本人はもとより介助者や家族、友人、知人に教えてください。

⚠注 意

●必ず平らな場所で乗車してください。

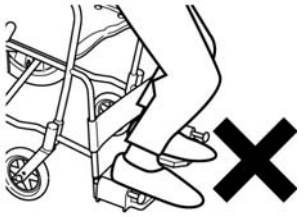
●クラッチレバーを切った状態（手動の状態）では乗車走行しないでください。
転倒･衝突の恐れがあり大変危険です。

●クラッチレバーを切った状態（手動の状態）で放置することはお止めください。
坂道等ではブレーキが効かず事故につながることがあります。

●車いすに乗り降りする時、あるいは一時駐車する時は、電源を切ってください。
誤ってレバーに触れると車いすが動き大変危険です

●クラッチレバーは電源スイッチを切ってから操作してください

●車いすに乗り降りの際は、必ずフットプレート（ステップ板）を上に跳ね上げてください。
フットプレート（ステップ板）の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。



7.各部の操作方法

リクライニングのしかた（KE15-PF 除く）

・フレームの左右にリクライニングレバーがついています。

・左右どちらかのレバーを引いて、背もたれに力を加えると、角度を変えることができます。

・座面に対して約 120 度まで倒すことができます。

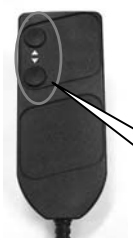
⚠注 意	リクライニングしたまま走行しないでください。

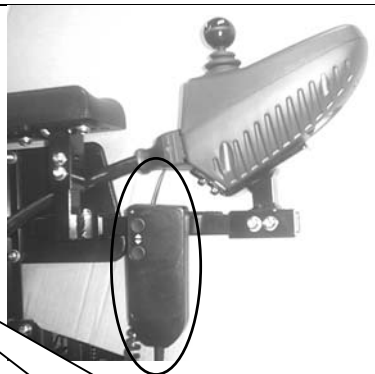
電動リクライニングのしかた（KE15-PF のみ）

・通常、電動リクライニング用コントローラーは操作ボックス取付角パイプにある面ファスナーにかけておいてください。

・リクライニングするときはコントローラーをフックから外し、コードが手前になるように待ちます。

・上側のボタンを押せば上昇し、下のボタンを押せば下降します。ボタンは離すと止まります。

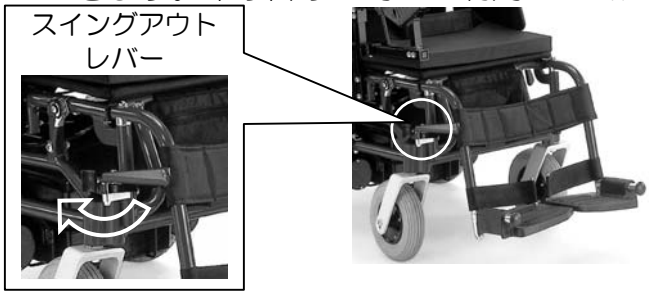




⚠注 意	リクライニングしたまま走行しないでください。

脚部スウィングアウトのしかた

・スイングアウトレバーを後方に押すと、脚部を外に開くことができます。乗り降りの時にご利用してください。



・外に回して脚部全体を引き上げると、取り外すことができます。

⚠注 意	脚部をスイングアウトしたまま走行しないでください。

座面角度調整のしかた（KE15 のみ）

・台車フレームと座席フレームをつないでいる金具の取り付け高さを変えると、座面角度を変えることができます。

工具：六角レンチ６mm・スパナ１３mm

・水平に対して、３度・５度・８度の３段階の調整が可能です。

⚠注 意
調整時は、ネジをしっかりと締め付けてください。

シート奥行き調整

・座席及び背フレームをつないでいる金具の取付位置を変えるとシートの奥行きを変えることができます。

工具：六角レンチ６mm・スパナ１３mm

⚠注 意
調整時は、ネジをしっかりと締め付けてください。

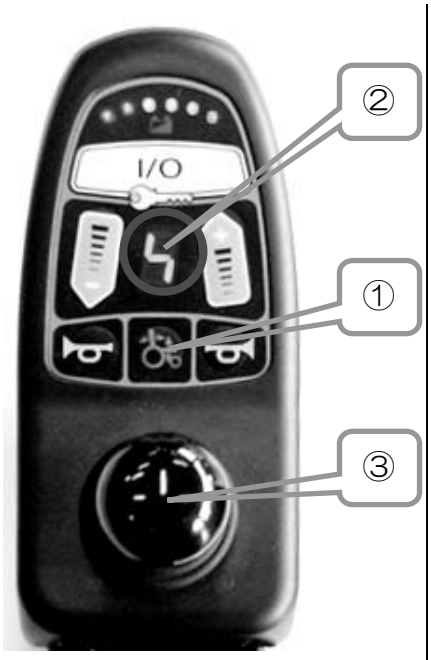
チルトのしかた（KE15-TI、KE15-PF のみ）
昇降のしかた（KE15-UD、KE15-PF のみ）

⑴　電源が入っているときに操作ボックスの車いすマークのボタン（図8-①）を押して昇降モードに切り替えます。

⑵　表示が（図8-②）の〇で囲われた部分の様になっているのを確認してください。

⑶　レバー（図8-③）を前に倒すと上昇し、手前に倒すと下降します。

⑷　走行する場合は車いすマークをもう一度押して速度設定の数字表示に戻します。



（図8）操作ボックス

8.バッテリーの充電のしかた

KE15 は充電式バッテリーでモーターを駆動する電動車いすです。充分な充電ができていないと、平地でのスピードが上がらず登坂力も落ち、走行中に停止する恐れがあります。

≪バッテリーに関する注意事項≫

⚠注 意

●発進、停止の繰り返しや上り坂、段差、溝乗り越えなどが多いとバッテリーからの消費電力が増えるため、通常より走行できる距離が短くなります。

●バッテリーは消耗品です。
正常な使い方をしていても、充電を繰り返しいるうちに徐々に劣化し、走行時間・距離が短くなります。（充電回数の目安は 200～300 回程度です。ただし、ご使用状況により異なります。）

●いつもよりバッテリーモーターのランプの減り具合が早くなったときや、走行できる距離が短くなったときは、バッテリーの交換時期です。早めに専用バッテリーに交換してください。
そのまま使われると急激に走行距離が短くなることがあります。

●バッテリーはシールドタイプ（完全密閉型）ですので、バッテリー液の補充の必要はありません。

●冬期は気温の低下（特に 10℃以下の場合）によりバッテリーの働きが弱くなるため、走行できる距離が短くなります。0℃以下になると走行できなくなる場合があります。
車いすを屋内に保管してください。

●バッテリーの充電は必ず専用充電器で行い、火気のない風通しの良いところ、雨露のかからないところで充電してください。

●バッテリーは、充電を繰り返していると本来の性能が発揮できるようになっています。
そのためバッテリーを新品に交換した直後は交換前より走行距離が短くなる場合があります。

●充電器には冷却用のファンが付いています。そばに物を置いたり、壁に近づけて冷却の邪魔にならないようご注意ください。

●充電は必ず充電完了まで行ってください。
充電の中断を繰り返すとバッテリーの劣化が早まります。

●長期間ご使用にならない場合でも、月に一度は充電してください。
バッテリーを長持ちさせることができます。

●バッテリーや充電器の分解・改造はしないでください。

●坂道や冬期、使用状況や使用年数により走行時間・距離が短くなります。
帰るときのことを考え、余裕を持って走行してください。

●車いすが動かなくなるまで走らないでください。バッテリーが過放電となり、寿命が短くなります。
したがってメーターが赤色に点灯しましたら、直ちに充電してください。

●バッテリーは電動車いす専用のバッテリーですので、交換時には必ず当社の専用バッテリーをお求めください。
万一他社のバッテリーを使用されますと、思わぬトラブルのもとになりますので、くれぐれもご注意ください。

●バッテリーを交換するときは２個同時に交換してください。

●使用済みバッテリーはそのまま廃棄せず、販売店にご相談ください

充電について

○購入後初めて使用する前に必ず充電してください。

○帰ってきた時に、走った時間が 30 分、距離にして3km 位なら充電は次回にします。それ以上の時は充電します。

○終日使って、走行中にバッテリーモニターのランプが１個以上消えている状態になったら、すぐに充電します。

○長時間使用しないと自然に放電しますので、使用する前に必ず充電してください。

○走行中にバッテリーの残量が少なくなってくると、右から順次ランプが１個ずつ消えます。

○走行中に３個以上消えるときはバッテリー切れになりますからすみやかに充電してください。

（図９）バッテリー残量表示
（操作ボックス先端部）

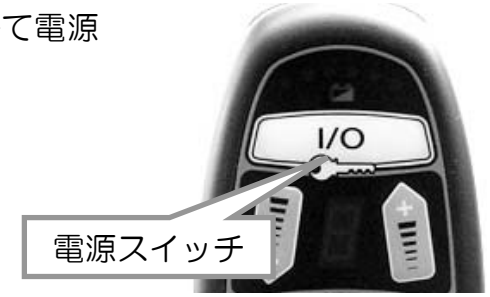
⚠ 注 意

●坂道や冬期、使用状況や使用年数により走行時間・距離が短くなります。
帰るときのことを考え、余裕を持って走行してください。

●坂道などでは残量表示ランプがついたり消えたりする場合がありますが、瞬間的に電気の使用量が増えるためであり、異常ではありません。

充電のしかた

①操作ボックスの上面にある｜/○ボタンを押して電源を切ります。（図 10）



（図 10）操作ボックス先端

②充電器の電源スイッチが OFF（「○」マーク）になっていることを確認して、操作ボックス下部にある充電プラグ端子に充電プラグを差し込んでください。（図 11）

（図 11）操作ボックス真正面部

③充電器の電源コードをのばし、家庭用 100V コンセントに差し込みます。

④充電器の電源スイッチを ON（「｜」マーク）にします。（図 12）
このとき、スイッチの反対側にある赤色の電源ランプと橙色の充電ランプが点灯し、充電を開始します。（図 13）

（図 12)充電器全体

⑤充電が完了すると橙色の充電ランプが緑色に変わります。電源スイッチを OFF（「○」マーク）にして、電源コード、充電用プラグの順に抜きます。

※充電ランプが変わった後も 2～3 時間充電を続けることで完全充電ができ、それを繰り返すバッテリー劣化による性能低下を和らげることができます。

※バッテリーの残量により、充電にかかる時間は異なります

（図 13）充電器一面

⚠注 意

- **バッテリーおよび充電器は専用の部品であり、この製品以外は絶対に使用しないでください。**
- **充電中にバッテリーに火気を近づけないでください。引火、爆発する恐れがあります。**
- **手や車体が濡れているときは乾くまで触らないでください。感電の恐れがあります。**
- **バッテリーを掃除するときは、乾いた布で拭かないでください。静電気が発生し爆発するおそれがあります。**
- **充電器は車いすの背中のバッグに入れて携帯できます。充電をするときはバッグから出して充電してください。バッグにいれたまま充電すると、熱がこもり充電器の故障の原因、車いすの火災の原因になる恐れがあります。**
- **直射日光を避け、風通しのよい場所で充電してください。**

9.バッテリー交換のしかた

KE15、KE15-UD、KE15-TI

⑴ 電源スイッチを切ります。

⑵ 座面板を上へ持ち上げて、バッテリーケースを固定しているベルトを外します。

⑶ ２つのバッテリーを接続しているコネクタを外します。

⑷ ケースごとバッテリーを両手で持ち上げます。（昇降、チルト仕様は異なります）

⑸ ケースを開け、バッテリーコードを外し、新しいバッテリーと入れ替えてコードを接続します。（＋〈赤〉、－〈黒〉の線を間違えないよう注意してください）

⑹ ケースのふたをして、車体に積み込み、コネクタを接続してください。バッテリーケースはベルトでしっかり固定してください。

KE15-PF

⑴ 座面を半分の高さまで上げて、電源を切ります。

⑵ バッテリーの固定ベルトとコネクタを抜いて樹脂カバーを外します。

⑶ ２つのバッテリーを接続しているコネクタを外します。

⑷ バッテリーを後ろ側から引出します。

⑸ バッテリーコードを外し、新しいバッテリーに付け替えます。（＋赤、－黒の線を間違えないよう注意してください。）

⑹ （1）～（4）と逆の手順で積み込んでください。

⚠ 注 意

●バッテリーは消耗品です。

正常な使い方をしていても、充電を繰り返しいるうちに徐々に劣化し、走行時間・距離が短くなります。（充電回数の目安は 200～300 回程度です。ただし、ご使用状況により異なります。）

●いつもよりバッテリーモーターのランプの減り具合が早くなったときや、走行できる距離が短くなったときは、バッテリーの交換時期です。早めに専用バッテリーに交換してください。

そのまま使われると急激に走行距離が短くなることがあります。

●バッテリーを交換するときは指をはさまないよう注意してください。

●使用済みバッテリーはそのまま廃棄せず、販売店に相談してください。

●工具等でバッテリーの（＋）端子と（－）端子を短絡させないよう注意してください。

10.分解のしかた

カワムラサイクル電動車いすは、運搬しやすいように分解することができます。分解した場合は、自動車の後トランクに入ります。分解のしかたは組立順序と逆の手順で分解してください。

※分解、組立、また自動車等で、車いすを運搬されるとき等は、コントロールボックスはできる限り静かに扱ってください。万一、落としたり、ぶつけたりしますと故障の原因になる場合がありますのでくれぐれもご注意ください。

11.保管のしかた

○月に一度は充電してください。

（バッテリーは使用しなくても自己放電して電気容量が減ります。減りすぎるといくら充電しても元の性能は取り戻せなくなり、バッテリーが使用不能になってしまいます。くれぐれもご注意ください。）

○月に一度は空気圧を点検し、空気を補充してください。

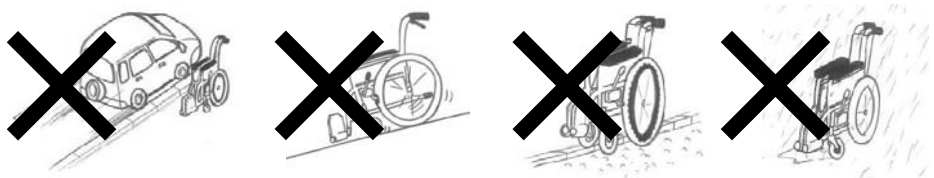
タイヤの空気は使わなくても減っていきます。放っておくとタイヤをいためますので、

○直射日光や水・雨水・露のかからない場所に保管してください。

⚠ 注 意

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- 車道に近いところ
- 人通りのあるところ
- 坂道
- 路面に段差や凸凹のあるところ
- 湿気の多いところ
- 暑い日や寒い日の戸外
- 海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
- 雨、風のあたる場所
- ほこりの多い場所
- 非常口、消火器、消火栓の前
- 直射日光の当たる場所（車内も含む）
- ストーブなど火気を使用し高温になる場所
- 子供がいたずらをする恐れのある場所



12. 安全で快適な走行をするために

高齢者による電動車いす利用の増加に伴い、電動車いす利用者が交通事故に巻き込まれる事故が増えています。

★「買物」「買物」、「訪問」、「通院」が多くなっています。
★道路横断中するとき、車道へ乗り出すときの事故が多くなっています。
★その他、用水路への転落や踏切内での事故も起こっています。

●道路に乗り出す前に公園など安全な広い場所で周囲の安全を確認しながら十分練習をしましょう。

初めて道路に出るときは必ず介助者に同行してもらい、交通ルールや安全な走行順路を確認してください。

●歩行者としての交通ルール、マナーを守りましょう。

弊社の電動車いすは、道路交通法上「歩行者」として扱われます。歩行者としての交通ルールを守りましょう。
電動車いすは、一般の歩行者からみると「強い存在」となることもあります。利用する場合には譲り合いの気持ちを持って利用してください。

●夜間、雨の日の走行は危険です。

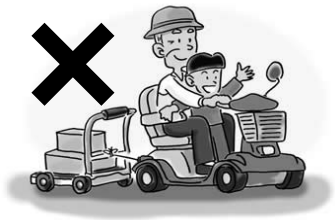
夜間や雨の日、降雪時、濃霧、強風時、狭い室内、不整地（ぬかるみ・凸凹の ひどい道・砂地・砂利道など）、急な坂道、路肩などの走行は危険です。ご使用をお避けください。

●ケガや事故を防ぐための禁止事項

（電動車いす安全普及協会ホームページより引用）

身体を投げ出さないでください。

電動車いすから身体を乗り出すような行為は、しないでください。バランスを崩し転倒する恐れがあります。



２人乗りや牽引はしないでください。

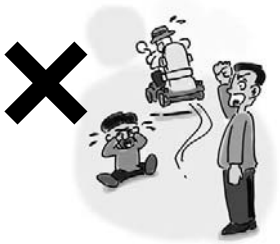
２人乗りや荷物の牽引はしないでください。運転操作を誤ったり、バランスを崩し転倒する恐れがあります。

坂道で利用するときの注意。

坂道は道路の状況に応じて、安全な速度で走行してください。
また、クラッチを手動に切り替えた状態での走行は大変危険です。

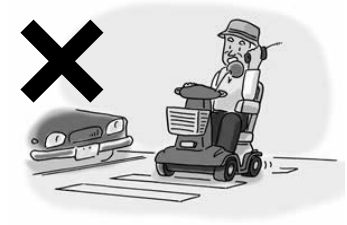
坂道での手押し移動はしないでください。

手押しで移動するときは平坦な道路で移動してください。 手動ブレーキ付きの電動車いすの場合は、ブレーキレバーに手をかけて移動してください。



節度ある利用を心掛けてください。

乱暴な運転はしないでください。周囲の迷惑になるばかりでなく、バランスを崩し転倒する恐れがあります。また、電動車いすには一定の幅があります。歩行者の近くを通るときは、歩行者とぶつからないよう一定の距離をおいて通行してください。



携帯電話などの使用について。

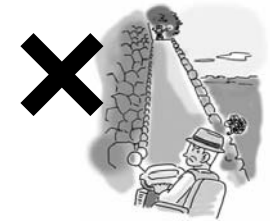
走行中は携帯電話を使用しないでください。携帯電話を使用するときは安全な場所に停止し、電動車いすの電源スイッチを切ってから使用してください。

飲酒運転はしないでください。

少量でもお酒を飲んだときは、絶対に電動車いすを利用しないでください。運転操作を誤り事故を起こす恐れがあります。また、眠気を催す薬を飲んだあとも絶対に利用しないでください。

●危険な場所の走行は避けてください。

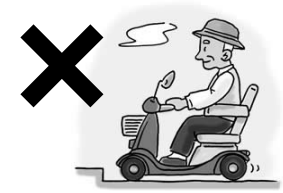
（電動車いす安全普及協会ホームページより引用）



急な坂道。

急な坂道の通行は避けてください。転倒してケガをする恐れがあります。通行可能な傾斜角度については、付属の取扱説明書をご覧ください。

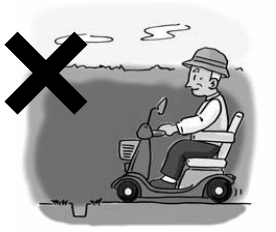
坂道を通行するときは、上り下りともに前進で、坂道に対してまっすぐに通行してください。斜めに通行するとバランスを崩し転倒する恐れがあります。



大きな段差。

大きな段差の乗り越えは避けてください。転倒してケガをする恐れがあります。乗り越え可能な段差の高さについては、付属の取扱説明書をご覧ください。

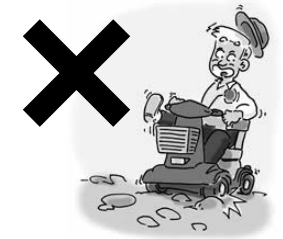
段差を乗り越えるときは、ハンドルをしっかりと握り、段差に対して直角に進入してください。斜めに進入すると、バランスを崩し転倒する恐れがあります。



大きな溝。

大きな溝を渡ることは避けてください。タイヤが溝に挟まり走行不能になったり、転倒してケガをする恐れがあります。渡ることが可能な溝の幅については、付属の取扱説明書をご覧ください。

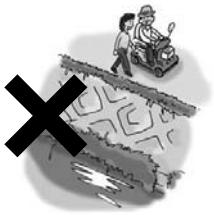
溝を渡るときは、ハンドルをしっかりと握り、溝に対して直角に進入してください。斜めに進入すると、タイヤが挟まったりバランスを崩し転倒する恐れがあります。



急な傾斜地。

急な傾斜地の通行は避けてください。転倒してケガをする恐れがあります。通行可能な傾斜角度については、付属の取扱説明書をご覧ください。

傾斜地を通行するときは、ハンドルをしっかりと握り、身体の重心を斜面の高い方へかけながら通行してください。斜面の低い方へ重心をかけると、バランスを崩し転倒する恐れがあります。



その他の危険な場所。

以下のような場所での利用は避けるか、介助者の方と一緒に利用してください。思わぬ不具合が生じて、ケガをしたり走行できなくなる恐れがあります。

- ●雨や雪が降っているとき
- ●ぬかるみのある場所
- ●凸凹の激しい場所
- ●深い砂利道
- ●凍結している道路や雪道
- ●風が強かったり霧が深い日
- ●エスカレーター
- ●夜間
- ●防護柵のない側溝や路肩付近
- ●交通量の多い場所
- ●混雑している場所
- ●幅の狭い場所

●その他の注意事項

■取扱説明書をよく読んで理解し、安全運転を心掛けてください。
■安全にお使いいただくため、商品に貼付された“警告”“注意”“危険”の安全表示ラベルをよくお読みいただき、これらを必ず守ってください。
■人ごみや雑踏の中、交通量の多い道路、踏切、電車や乗り物に乗るなどは介助者の助けを借りるかご使用をお避けください。
■蛇行運転、急停止、急旋回操作は大変危険です。絶対にお避けください。

13. お出かけの前の確認事項

必ず日常点検をしてください。

お出かけの前は、必ず点検を行なってください。不具合のある状態で利用すると、ケガをしたり電動車いすを損傷する原因になります。詳しくは、付属の取扱説明書をご覧ください。

バッテリーの残量を確認してください。

お出かけの前は、必ずバッテリー残量を確認してください。残量が少ないまま利用すると、途中でバッテリーが切れて止まってしまう恐れがあります。充電時期の目安は、付属の取扱説明書をご覧ください。
また遠出をするときは、必ず満充電にしてからお出かけください。

前進・後進、速度の設定をしてください。

前進・後進切り替えスイッチ（切り替えスイッチ付き電動車いすの場合）や最高速度設定の使い方は、付属の取扱説明書をご覧ください。
前進・後進及び、最高速度の設定は、必ず平坦な場所で電動車いすが停止した状態で行なってください。走行中に切り替えると、電動車いすが急に止まったり、速度が変動して危険です。

出かけるときは、必ず周囲の安全確認をしてください。

出かけるときは、必ず周囲（前後左右）の安全を確認してください。必ず後ろを振り返り安全を確認してください。
道路に出るときも同様に、一旦停止し周囲の安全を確認してください。

14.故障かなと思ったら･･･

次のような症状がみられたら、次の表に従い点検を行ってください。
それでも異常がみられる場合はただちに使用を中止し、販売店にご連絡ください。

症状	点検方法	対処方法
電源が入らない	配線、コネクタは外れていませんか？	⇒しっかり接続してください。
	マグネットキーで電源を切っていませんか？	⇒マグネットキーで電源を入れてください。
走らない	電源スイッチは入っていますか？	⇒電源をいれてください。
	バッテリーモニターのランプは６個全て点灯していますか？	⇒バッテリーを充電してください。
	クラッチレバーは 手動 になっていませんか？	⇒ 電動 にしてください。
ハンドルが重いまたは軽い	タイヤの空気圧は正常ですか？	⇒お近くの自転車店、オートバイ店、ガソリンスタンド等でお確かめください。
走行時間が短くなった	充電が完了するまで充電しましたか？	⇒充電が完了(充電器の緑ランプ点灯)するまで充電してください。
	バッテリーを交換したのは１年以上前ですか？	⇒バッテリーを交換してください。
充電できない	充電器の電源ランプ(赤色)は点灯していますか？	⇒コンセントの差し込みをお確かめください。
	充電差込プラグはしっかり接続されていますか？	⇒プラグの差し込みを確認してください。
	充電器のヒューズは、切れていませんか？	⇒ヒューズが切れていないか確認してください。

15.仕　様

車　　種	電動車いす　KE１５
制　御　方　式	ジョイスティック電子回路制御方式
モーター定格出力	２４Ｖ×１９２W×２ケ
駆　動　方　式	後輪直接駆動方式
制　動　方　式	モーター発電制動および全自動電磁ブレーキ方式
操　舵　方　式	後輪の左右回転差および前輪キャスターによる操縦方式
バッテリー容量（5時間率）	１２Ｖ×３６Ａｈ×２ケ（完全密閉型）
充　電　器	自動充電方式
最高速度(変更可)	Ⅰ型は　4.5km/h　　Ⅱ型は　6.0km/h
連続走行時間(距離)	約 3.5 時間（約 25km）　　但し、バッテリーが初期性能の時
充　電　時　間	約１２時間　（バッテリーの放電状態により増減あり）
登　坂　角　度	８度
段差乗越え高さ	約４㎝
制動性能(変更可)	１m以下(平坦なコンクリート路)
フレーム構造	座面角度調整可　　３度、５度、８度（KE15 のみ） 背もたれ角度　　９０度から１２０度無段階 肘当て内巾寸法　　４０～３４mm 調整可 脚部スイングアウト
座　　巾	４０cm
前　車　輪　径	２００mm×５０mm　　ノンパンク
後　車　輪　径	３３０mm　空気入りタイヤ、タイヤ圧 2.8kg/㎡
重　　量	６０．５kg（KE15） ６９．２kg（KE15-TI/KE15-UD） ７３．５kg（KE15-PF）
長さ×巾×高さ	1,１４０×５７０×９７０―1,１４０mm
分解時（長さX巾X高さ）	７５０×５７０×７００

※上記仕様は改良等により、予告なしに変更する場合があります。
※KE15 型の基本性能は JIS９２０４－１９９９の基準に適合しています。
※連続走行距離は、常温（20℃）、標準体重（75kg）、満充電の新品バッテリーで平坦路を最高速度で連続走行したときの距離を示しています。

16.定期点検と記録

安全に使用していただくために下表にしたがって購入１ヶ月後、その後６ヶ月毎に点検してください。

＜車体まわり＞

タイヤ	・亀裂や損傷はありませんか？ ・タイヤはすり減っていませんか？ ・釘、石、その他の異物が刺さったり、噛みこんだりしていませんか？ ・空気は減っていませんか？
タイヤ取付部	・ボルトの緩みやガタはありませんか？
バッテリー	・接続部の緩みはありませんか？ ・外装の変形やひび割れはありませんか？
配線	・ケーブルの破損はありませんか？ ・コネクターの緩み、損傷はありませんか？
クラッチレバー	・正常に作動しますか？
リクライニングレバー	・正常に作動し、確実に固定されていますか？
ネジ、ノブ類	・緩みはありませんか？

＜座席に座って＞

バッテリー残量表示	・満充電後に残量表示の目盛りがすべて点灯していますか？
肘掛け	・正常に固定されていますか？

＜走行して＞

アクセルレバー	・押さえる、放すの操作で走行、停止しますか？
最高速度設定	・速度変化しますか？
モーター	・異常音はないですか？ ・電磁ブレーキは平坦路では１m以内で止まりますか？ ・下り坂（10 度以下の坂）では 1.5m以内で止まりますか？

＜定期点検記録簿＞

（販売店の方へ）

定期点検記録を下表にご記入ください。

点検項目	購入 １ヶ月後	６ヶ月後	１年後	１年半後	２年後
タイヤ					
タイヤ取付部					
バッテリー					
配線					
クラッチレバー					
リクライニングレバー					
ネジ、ノブ類					
バッテリー残量表示					
肘掛け					
アクセルレバー					
最高速度設定					
モーター					
点検実施店名					
点検実施日					

＜部品交換の記録＞

17.車体番号

アフターサービスなどを的確に受けるため、車体番号を記録しておいてください。
車体番号は車体後方の車体カバーに貼り付けられています。

車　　種	
車 体 番 号	
製 造 年 月	年　　月

＜車体番号貼付位置＞

18. 保証

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

★保証書

この商品には保証書を別途添付しております。
返送用登録はがきに所定の事項を記入のうえ、商品購入後１ヶ月以内に弊社へご返送いただきご登録ください。
※ご登録がない場合は保証対象外となりますのでご注意ください。

★保証期間

お買い上げ日より１年間（消耗部品は含みません。）

★保証期間後

保証期間後はお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★消耗部品

- ・タイヤ
- ・電球(前照灯･後照灯･方向指示灯)
- ・バッテリー
- ・ベアリング
- ・モーターのブラシ
- ・可動部のブッシュ
- ・ブレーキワイヤー
- ・電磁ブレーキ本体
- ・ドラムブレーキ本体

★保証の適用除外となる場合

（a） ご使用による消耗および取扱不注意による破損
（b） 地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（c） お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（d） 保全上の不備および弊社以外で行った修理や改造等による破損
（e） 弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（f） 一般に電動カートが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
（g） 製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
（h） 取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
（i） 取扱説明書に禁じられてる使用方法によって生じた故障
（j） ご購入後１ヶ月以内に返送用登録はがきをご返送いただいていない場合
（k） 日本国外でご使用の場合

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、５年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡しください。

★一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

地球の環境保護のため、廃棄するときはそのまま放置しないで各自治体の取り決めにしたがってください。

メ　モ

メ　モ

株式会社カワムラサイクル

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■さいたまサービスセンター	〒338-0002	さいたま市中央区下落合 7-11-2	TEL048-832-0168
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町１-３-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒564-0044	大阪府吹田市南金田２-20-10	TEL06-6190-8488
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原１-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場　■メンテナンスセンター

※本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上のために一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。
・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2007.10.01